

[平成13年度 普及に移す技術]

ハウレンソウの新しいべと病菌に対する抵抗性品種と防除技術							
[要約] ハウレンソウのべと病による被害を防ぐため、べと病菌レース 1,2,3,4 および病原性の異なる新しいレースに抵抗性を有する品種を用いる。また、防除薬剤の予防散布を徹底する。							
農業試験場・園芸・バイオ部・野菜研究グループ			契機	普	要請元	福井農林総合事務所	
部会名	野菜・花き	専門	育種	分類	葉茎菜類	分類	指導

[背景・ねらい]

近年、県内のハウレンソウ産地においては、冬のハウス栽培でべと病の発生が減収の大きな原因になっています。また、そのべと病はべと病菌レース 1,2,3,4 抵抗性品種にも発病していることから、従来のべと病菌とは病原性の異なる新しいべと病菌であると考えられます。

そこで、ハウレンソウの新しいべと病菌による被害を防ぐため、抵抗性を有する品種の検索、防除薬剤の効果について検討します。

[技術の内容・特徴]

1. 新しいべと病菌に対する抵抗性は品種によって差が見られ、べと病菌レース 1,2,3,4 に抵抗性を有し、かつ新しいべと病菌にも抵抗性を示す品種は「パンドラ」等 9 品種です (図 1)。
2. 新しいべと病菌およびレース 1,2,3,4 に抵抗性を示す晩秋まき用品種のうち、市販品種の中では「パンドラ」が、低温伸長性が優れます (図 2)。
3. 新しいべと病菌に対して、いずれの薬剤も予防効果がありますが、発病抑制期間が比較的長いユーパレン水和剤が効果的です (図 3)。
4. ベと病菌感染後の薬剤散布はいずれの薬剤も防除効果が不十分ですが、サンドファレン C 水和剤は比較的有効です (図 3)。

[技術の活用面・留意点]

1. 防除薬剤は、発病前の予防散布を心がけるとともに、安全使用基準を参考に使用時期を厳守しながら薬剤の種類を変えて散布する必要があります。
2. 葉を濡らすと、べと病の発生を助長しますので灌水はできる限り控えてください。

[具体的データ]

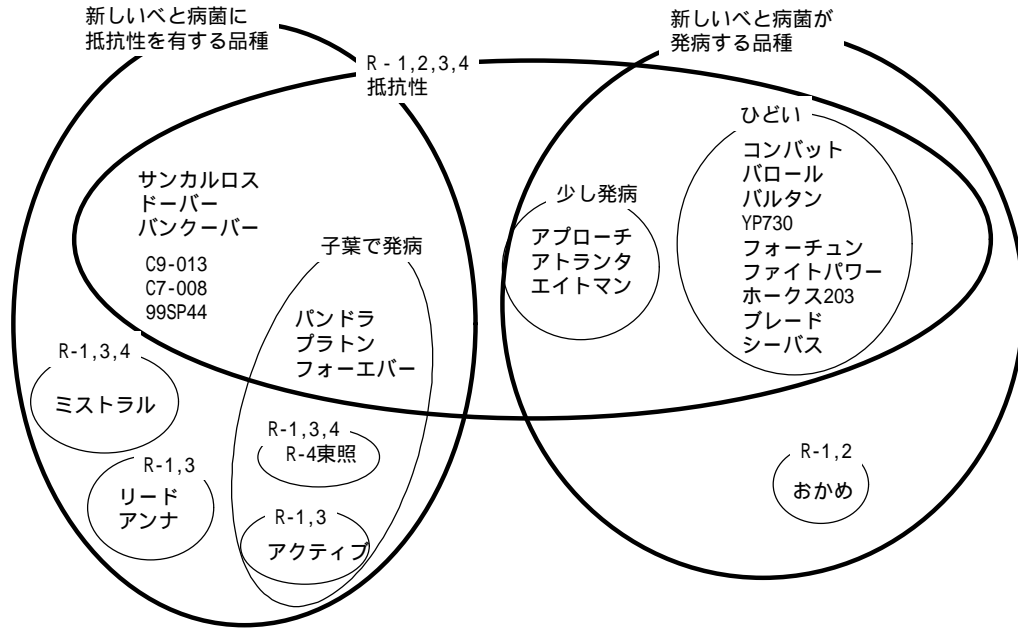


図1 各品種における新しいべと病菌に対する抵抗性

接種法：現地「パロール」の病班を採取し、無病の「パロール」に接種して得られたべと病菌を 2×10^4 個/ml 以上の濃度で噴霧接種
 管理法：接種前；育苗床で 15~25 で管理 接種後；湿度 90%以上で 12 時間日長、5,000lx、10~15 の条件下で管理

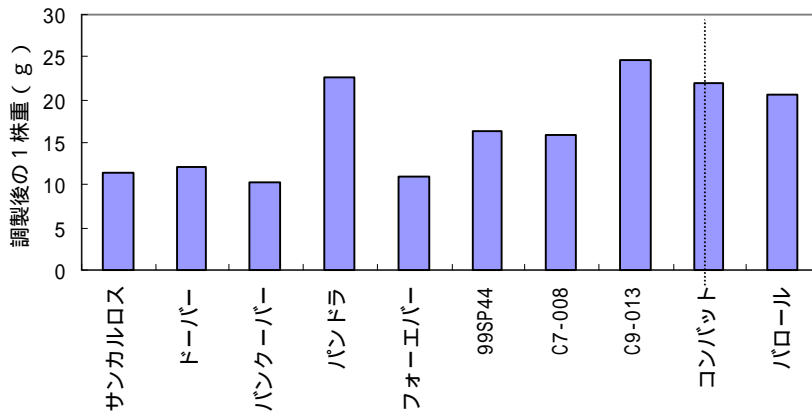


図2 新しいべと病菌に対して抵抗性を持つ品種の調製後の1株重

11/9 播種 調査 1/17 (播種 70 日後)

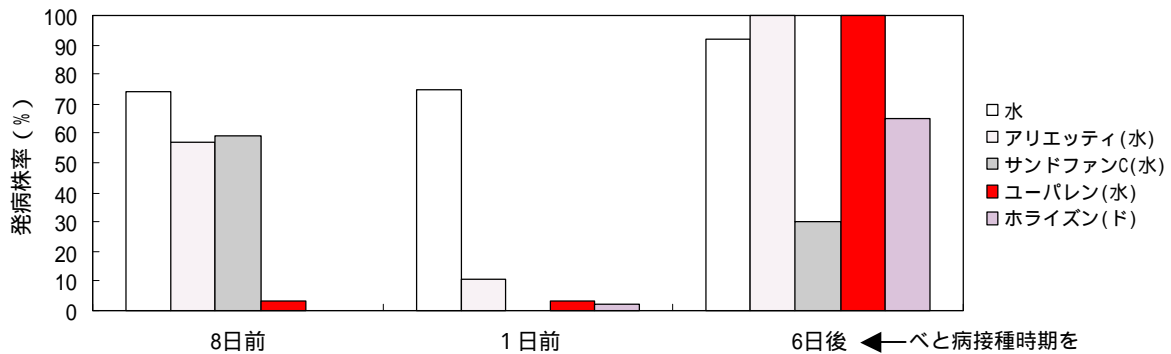


図3 農薬の効果

注) ホライズンドライフフロアブルは登録拡大申請予定

基準にした農薬散布時期